

養護学校における2年次教育実習のアンケート結果

新潟大学教育学部附属養護学校実習委員

青木 稔 (主任)

野 俣 正 樹

松 原 誠

はじめに

当教育学部における教育実習は、主専攻が2年次で2週間、3年次と4年次でそれぞれ2.5週間ずつ行ない、副専攻については、3年次あるいは4年次のいずれかに2週間実施する形態をとっている。

2年次教育実習（新潟地区）において今年度からの試みとして附属養護学校の参観実習を取り入れた。241名の2年次学生を4グループに編成し（1グループ約60名）、1グループ2日間ずつ交代で附属養護学校の参観実習を実施した。附属小学校・中学校での2週間の期間中の2日間を当校の参観実習としたわけである。

この参観実習の実施の意図は教職を志す全学生に対し、2年次の段階において、健常児の教育に加えて障害を持った児童・生徒の教育についても理解と関心をひろめる必要があると考えたわけである。

実習終了時において、実際に2日間の観察実習が2年次学生にどのように受けとめられたかを調査し、今後の養護学校実習のあり方を探るためこの調査を計画した。

以下は、2年次実習を終了した241名の全学生に対して行なったアンケートの内容とその集計の結果である。

アンケート回答者数		
○小教課程2年次学生	101名	} 計 176名
○中教課程2年次学生	67名	
○養教課程2年次学生	8名	
※対象数241名、回収率73%		

集計結果

問1 養護学校での実習を受けてどのように思いましたか。次の項目から1つを選んで○印を付けてください。

ア 有意義であった。 イ 実習の必要を感じない。 ウ わからない。

ア、イに○印をつけた人はその理由を簡潔に書いてください。

<回答内容>

	小 教	中 教	養 教	合計 (%)
ア 有意義であった	99 名	65 名	8 名	172 名 (97.7)
イ 実習の必要を感じない	1	0	0	1 (0.6)
ウ わからない	1	2	0	3 (1.7)

<有意義と答えた理由>

(1) 障害児の理解に関すること：

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
障害児に対する偏見がなくなり、障害児に対する理解が深まった。	25	15	3	43 (24.4)
障害児の明るさ、美しい心根、自然の姿にふれることができた。	3	7	0	10 (5.7)
障害児をはだで感じ、接することができた。	3	3	2	8 (4.5)
障害児は、普通の子と全く同じに、またそれ以上に純真でかわいと思うようになった。	2	1	2	5 (2.8)
彼等も立派に生きていることを認識できた。精一杯頑張っている姿を見ることができた。	2	2	0	4 (2.2)
子ども本来の姿に接することができた。	1	3	0	4 (2.2)
様々な子どもたちに接することができた。	2	2	0	4 (2.2)
障害児との壁がなくなったような気がした。	1	1	0	2 (1.2)
自分が健康であるため忘れがちであった障害児のことを認識することができた。	1	0	0	1 (0.6)
子どもの実存ということを考えさせられた。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	41	34	7	82 (46.6)

(2) 教育に対する理解に関すること：

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
教師になるためには一度は知っておくべきであり、将来必ず役立つと思う。	7	5	0	12 (6.8)
教育に対する考え方が変わり、視野が広がった。	2	8	0	10 (5.7)
子どもを見る視野が広がった。健常児を指導する際に別の見方ができる。	4	1	0	5 (2.8)
子どもの一生懸命な姿、先生方のまなざしに、普通学校では決して見られない教育の本質を感じた。	2	2	0	4 (2.3)
児童・教育というものについてより深く考えるようになった。	1	3	0	4 (2.3)
教育のむずかしさを感じるとともに、自分を反省することができた。	1	1	0	2 (1.1)

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
本当の学校の必要を感じた。	1	0	0	1 (0.6)
障害児教育の大変さを知り、子どもたちの純粹さに感謝して、普通教育を見直そうという気持ちがおきた。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	19	20	0	39 (22.2)

(3) 養護学校の理解に関すること：

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
養護学校と、その中にいる障害児の実態を知ることができた。	21	7	1	29 (16.5)
養護学校の教育は、教育の原点ではないかと思った。	3	2	0	5 (2.8)
養護学校についての、まちがったイメージをとり除くことができた。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	25	9	1	35 (19.9)

(4) 障害児教育に関すること：

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
障害児教育に興味・関心をもつきっかけになった。	8	2	0	10 (5.7)
今までまったく知らない世界を知ることができた。	2	3	0	5 (2.8)
特殊教育というものを実感として受けとめることができた。	2	1	0	3 (1.7)
学校教育に含まれている障害児教育の存在に気づき、その重要性、必要性がわかり、今後それを忘れないでいたい。	0	2	0	2 (1.1)
特殊教育のすばらしさを感じた。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	13	8	0	21 (11.9)

(5) 教師像・教師観に関すること：

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
生徒一人ひとりに愛情をそそぐことの大切さをひしひしと感じた。	1	4	0	5 (2.8)
生徒が先生を本当に必要としている場面、先生方の豊かな表情を見ることができた。	0	1	2	3 (1.7)
どんな生徒でも、先入観なしで公平に見られるような自信がついた。	1	2	0	3 (1.7)
先生方のひたむきな教育姿勢に感動した。	0	1	1	2 (1.1)
障害児教育にあたる先生方の苦勞が感じられたし心うたれた。	1	1	0	2 (1.1)
教師になることに責任を感じた。	0	1	0	1 (0.6)
全く別の種類の先生方を発見した。	0	1	0	1 (0.6)
合 計	3	11	3	17 (9.7)

(6) その他

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
とても密度の濃い勉強、貴重な経験をした。	5	1	0	6 (3.4)
これからの大学における学習に、違った勉強を取り入れたいと考えた。	1	0	1	2 (1.1)
合 計	6	1	1	8 (4.5)

<実習の必要を感じないと答えた理由>

理 由	小教	中教	養教	計 (%)
2年次では、もっと普通教育の実習をした方がよい。別の年次でやるならまた違うが。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	1	0	0	1 (0.6)

問2 実習日数についておこたえください。(今回は2日間ずつ実施)

- ア 2日間でよい イ 3日ぐらいがよい
ウ 1週間ぐらいがよい エ わからない

<回答内容>

	小 教	中 教	養 教	合 計 (%)
ア 2日間でよい	8	5	0	13 (7.4)
イ 3日ぐらいがよい	38	22	5	65 (36.9)
ウ 1週間ぐらいがよい	49	36	3	88 (50.0)
エ わからない	6	4	0	10 (5.7)

問3 講義について。(今回は「障害児教育」「本校の教育課程」の2講義)

- ア 2つの講義で十分 イ もう少し多い方がよい ウ わからない

イに○印をつけた人は、その他どのような講義を希望するか書いてください。

※ { その他、附属小・中学校においては、「学習指導」・「指導案」・「授業参観の視点」
・「発問と板書」・「学級経営」・「教育機器」等についての講義を受けている。 }

<回答内容>

	小 教	中 教	養 教	合 計 (%)
ア 2つの講義で十分	59	33	6	98 (55.7)
イ もう少し多い方がよい	26	22	1	49 (27.8)
ウ わからない	16	12	0	28 (15.9)
エ 無回答	0	0	1	1 (0.6)

<他に希望する講義内容>

	小教	中教	養教	合計
◦障害児の習性・特徴など	5	7	0	12
◦障害児教育の具体的な実践例	2	4	0	6
◦ダウン症・自閉症等もっとくわしく知りたい	5	0	0	5
◦障害児の現状と将来, 社会の障害児に対する理解	2	2	1	5
◦障害児心理	1	3	0	4
◦脳生理学・障害児の病理	2	1	0	3
◦子どもの発達の具体例を聞きたい	2	1	0	3
◦生徒に対する教師の態度	2	0	0	2
◦障害児のための施設	0	2	0	2
◦障害児とその家庭	1	0	0	1
◦障害児教育における問題点	1	0	0	1
◦本校における教育の特色について	0	1	0	1
◦教師の障害児教育に対する意見	0	1	0	1
◦言語などの各種の治療について	0	1	0	1
◦遊戯療法について	1	0	0	1
◦障害児の保健	0	1	0	1
◦子どもの教師に対する気持ち・学級経営のやり方	1	0	0	1
◦諸外国の障害児教育について	1	0	0	1
◦国際障害者年について	0	1	0	1

※その他、講義時間の短かかったことについての指摘が多数なされていた。

問4 他学部の授業参観について

ア 現行の1～2時間でよい イ もう少し多い方がよい ウ わからない

イに○印をつけた人はその時間を書いてください。

※ { 2年次学生を小学部・中学部・高等部のいずれかの学部に配属させたが、自分の所属した学部以外の他学部 (ex 小学部配属の学生は中学部と高等部) を2日間の日程のうち1～2時間参観させる形態をとった。 }

<回答内容>

	小 教	中 教	養 教	合 計 (%)
ア 現行の1～2時間でよい	28	20	1	49 (27.8)
イ もう少し多い方がよい	62	40	7	109 (62.0)
ウ わからない	10	6	0	16 (9.1)
エ 無回答	1	1	0	2 (1.1)

<多い方がよいと答えた望ましい時間数>

	小 教	中 教	養 教	合 計
○ 3～4時間	15	15	2	32
○ 5～6時間	10	7	0	17
○ 6～7時間	2	0	0	2
○ 1日ずつ	8	2	2	12
○ 各学部均等に同じ時間数ずつ	7	2	0	9
○ 多ければ多いほどよい	3	1	0	4
○ 自由に参観できるとよい	0	1	0	1

問5 その他、来年度以降の実習をより充実させるために改善点・要望等自由にお書きください。

<回答内容>

(1) 時間的な面に関すること：

項 目	小教	中教	養教	合 計 (%)
もう少し時間が欲しかった。期間が短い。	26	29	1	56 (31.8)
実習日程に余裕をもたせて欲しい。	1	1	0	2 (1.1)
土曜日にかからないように日程を組んで欲しい。	0	0	2	2 (1.1)
2日では短かすぎ、それ以上になると主になる実習が中途半端になる。どうかして何とかして欲しい。	1	0	0	1 (0.6)
合 計	28	30	3	61 (34.6)

(2) 子どもとのふれあいに関すること：

項 目	小教	中教	養教	合 計 (%)
子どもたちと自由にふれあう場と時間をもっと多くして欲しい	12	13	0	27 (15.3)
昼休みをもっと長くした方がよい。子どもたちをもっと遊びたい。	0	6	0	6 (3.4)
給食時、子どもと同じものを食べたかった。	2	3	0	5 (2.8)

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	ここの生徒と、もっと早く接触できるとよかった。	0	1	0	1 (0.6)
	授業中に、子どもと話ぐらいはできるようにして欲しかった。	0	1	0	1 (0.6)
	合 計	14	24	2	40 (22.7)

(3) 授業参観に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	他学部の授業参観の時間をもっと多く。	6	4	2	12 (6.8)
	参観できない教科のあったことは残念。一通り全教科・全領域を見たかった。	5	3	1	9 (5.1)
	授業参観は自分で自由に動けるとよかった。	1	0	0	1 (0.6)
	養護・訓練の指導をみんなに見せて欲しい。	1	0	0	1 (0.6)
	合 計	13	7	3	23 (13.1)

(4) 講義・協議会に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	先生方とじっくり話し合う時間、質問の時間をもっと欲しい。	7	3	0	10 (5.7)
	協議会は全学部一緒にしてもらいたい。	0	1	0	1 (0.6)
	短い時間を補う方法として、教生同志互いに気づいた点を話し合う時間等もあってよかったのではないか。	1	0	0	1 (0.6)
	講義は、スライドやOHPなど、視覚にうってて欲しかった。	0	1	0	1 (0.6)
	講義の時間をのばしてもらいたい。	0	1	0	1 (0.6)
	講義はあとからでもよい。	1	0	0	1 (0.6)
	合 計	9	6	0	15 (8.7)

(5) 実習内容に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	参観実習ではなく、参加の実習でありたかった。	1	3	0	4 (2.3)
	実習前にオリエンテーションをやって欲しかった。	0	2	0	2 (1.1)
	養護学校に実習に来ることをもっと事前に知らせて欲しかった。附中の実習に入ってから知らされ、あまり突然のことで実習に対する心がまえができていなかった。	0	1	0	1 (0.6)
	実習前のオリエンテーションの時間をもっと増やすべき。	1	0	0	1 (0.6)
	合 計	2	6	0	8 (4.6)

(6) 実習生の人数に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	もう少し少人数ずつ実習させて欲しい。子どもにプレッシャーをかけている。	4	3	0	7 (4.0)
	多くの授業を見るのはよいが、子どもたちの気を散らしてしまったみたいだ。	1	0	0	1 (0.6)
合	計	5	3	0	8 (4.6)

(7) 実習の継続に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	養護学校の指導は、普通教育にも通ずることがたくさんあり、いろいろと思い知らされた。絶対に来年以降も続けて欲しい。	4	1	1	6 (3.4)
	普通学校に行っても障害児の教育はさけられないことなのだから、ぜひもっと重視すべき。	1	0	0	1 (0.6)
合	計	5	1	1	7 (4.0)

(8) 対教師に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	その子に関するくわしいデータを見てみたかった。	1	1	0	2 (1.1)
	養護学校の先生の人間的で生徒思いの点に魅力があった。	1	0	0	1 (0.6)
	当校の具体的な実践例とその結果を知りたかった。	0	1	0	1 (0.6)
	子どもたちの発達のおおすを1人だけでもスライドか何かで知らせて欲しかった。	0	1	0	1 (0.6)
	先生方の仕事を教えて欲しい。	1	0	0	1 (0.6)
	日誌を早く返して欲しかった。	1	0	0	1 (0.6)
合	計	4	3	0	7 (4.1)

(9) 実習の時期に関すること：

項	目	小教	中教	養教	合計 (%)
	附属小・中学校実習と養護学校実習の日程を別々に考えたらどうか。	2	3	0	5 (2.8)
	主専攻の教育実習の中間にやるのではなく、実習の最初とか最後にまとめてやって欲しい。	0	1	0	1 (0.6)
合	計	2	4	0	6 (3.4)

(10) その他：

項 目	小教	中教	養教	合 計 (%)
もう少し実習生を受け入れる体制を充実させて欲しい。有意義ではあったが表面のみしか参観できなかった。	1	0	0	1 (0.6)
各学部への配属は希望をとって決めて欲しかった。	1	0	0	1 (0.6)
配属学級の指導教官と子どもの紹介を最初にやって欲しい。	1	0	0	1 (0.6)
教生もプールに入れて欲しかった。(水泳指導時)	1	0	0	1 (0.6)
控室に机とお茶が欲しかった。	0	1	0	1 (0.6)
合 計	4	1	0	5 (3.0)

おわりに

わずか2日間ずつの実習ではあったが、アンケートを集約してみて、予想以上に学生の反応があったことに驚いた。それと同時に、この実習の学生に与えた影響の大きかったこともうかがえた。

障害児教育に携わっている私どもは、この実習において少しでも障害児に対する偏見の薄らぐことを願ったわけであるが、その点についての効果は実に大きいものがあったと考えられる。

養護学校実習は、97.7%の学生が有意義であったと回答をよせ、その理由として、障害児の理解(46.6%)教育に対する考え方の深まり(22.2%)など、障害児教育は言うに及ばず教育全体のあり方にまで目を向けたり、教師になろうとする自分の教師像・教師観にまで思いをいたらせるきっかけとなり得たことは、うれしい限りである。

しかし、アンケートの回答にも示されたように、初めての試みであるこのたびの実習は、いくつかの問題点を残していることは確かである。附属小・中学校と養護学校実習との関連、実習日数の問題、実習方法に関するいろいろな具体的問題等があげられる。

これらの浮きぼりにされた問題点のうち、当校のみで解決を図れるものもあるが、今後、教育学部実習委員会はもとより、教育実践指導センター等の場において、教育実習の全体計画の中で2年次実習のより良き方向を探る必要があると考える。

この調査結果が今後の教育実習充実のために役立つことを期待している。